

この長い夜が明けたら 埃かぶったままの葉開いて
カビくさい匂いが立てば まだ誰も知らないプロローグになる

海の見えるところで 僕ら待ち合わせよう
誰にも奪いきれない 暁があるから

あの空が青なら
動き出した今日の向こうにいつかの僕も連れて行こうか
灯台の明かりが燈る頃には
水平線に浮かぶ 僕の過去や未来

ゴミのように思えた日々を夜の月が照らし輝く

「今ならまだ間に合う」と言葉にならない言葉
鼓動に耳を澄ませば あの歌が聞こえてくるだろう

間違いだらけの希望もいいさ
いまに溢れて 花も 咲くだろう
波打ち際で明日を占え
足跡続く砂の上から

何かがいま 変わり始めている

あの空が青なら
動き出した今日の向こうにいつかの僕も連れて行こうか
灯台の明かりが燈る頃には
水平線に浮かぶ 僕と君の答えだ